

奈良国立文化財研究所要項

I 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

- (1) 1976年5月15日 第39回公開講演会
 「平城宮の井戸」 黒崎 直
 「古代の測量術」 木全 敬蔵
- (2) 1976年11月13日 第40回公開講演会
 「古代寺院の基壇」 田辺 征夫
 「平城京と宮の園池」 田中 哲雄

現地説明会

- (1) 1976年6月19日 平城宮跡推定第一次朝堂院
 東第一堂発掘調査現地説明会 高瀬 要一
- (2) 1976年8月7日 薬師寺西塔跡発掘調査現地
 説明会 岡本 東三
- (3) 1976年8月21日 山田寺塔・中門・回廊跡及
 び大官大寺回廊跡発掘調査現地説明会
 山崎 信二・松本 修自
- (4) 1976年11月27日 平城宮跡東院庭園跡発掘調
 査現地説明会 須藤 隆

- (5) 1977年1月29日 稲淵川西遺跡発掘調査現地
 説明会 黒崎 直
- (6) 1977年3月12日 平城宮跡(佐紀池)発掘調
 査現地説明会 吉田 恵二

平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開
 1976年4月25日～5月5日 見学者 5,963名
 秋季特別公開・資料展示「平城宮跡保存の先
 覚者たち—北浦定政を中心として—」
 1976年10月23日～11月7日 見学者20,425名
- (2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1976年	48,776	60,746	109,522
累 計	226,192	440,335	666,527

※資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

2 1976年度文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研究代表者	交 付 額
特 定 研 究 (1)	遺構の埋蔵環境と劣化現象ならびに保存処理に関する研究	横 山 浩 一	5,000 ^{千円}
〃	写真測量による建造物の経年変化の研究	鈴 木 嘉 吉	2,900
〃	地下遺構の探査法の開発	田 中 琢	3,400
〃	遺跡に関する情報の活用システムの基礎的研究	田 中 琢	1,000
一 般 研 究 (C)	中世公家法資料の収集ならびに研究	田 中 稔	1,200
一 般 研 究 (D)	奈良・平安時代古写経遺品についての基礎的研究	鬼 頭 清 明	390
〃	書風よりみた木簡の研究	東 野 治 之	290
〃	古代脱穀具の系譜的研究	木 下 正 史	300
奨 励 研 究 (A)	土師器における轆轤技法採用の研究	千 田 剛 道	230
〃	日本中世集落遺跡の研究	安 田 龍 太 郎	270
海 外 学 術 調 査	海外学術調査の成果の整理、活用等に関する調査研究(考 古・美術史関係)	横 山 浩 一	1,500

3 飛鳥資料館の運営

展 示

- 第一展示室 常設展示
 第二展示室 特別展示「飛鳥の寺院遺跡—最近
 の出土品」

(1975.9.22～1976.5.31)

特別展示 「飛鳥・白鳳の在銘金銅仏」

(1976.9.23～11.23)

常設展示 飛鳥・白鳳の彫刻コーナーを新設

奈良国立文化財研究所要項

- (3) 平城宮跡整備基本計画策定に関する小委員会
 1977年2月15日 於平城宮跡資料館
 第3回飛鳥資料館運営協議会
 1976年5月25日 於飛鳥資料館
 第2回木簡研究集会
 1977年1月11日・12日
 於平城宮跡資料館

外国出張

田中琢 東・東南アジアにおける青銅器文化に関するシンポジウム出席のためタイへ派遣された。

1976年7月4日～同年7月10日

木全敬蔵 ターク・イ・プスタン浮彫の写真測量調査(イラン・イラクにおける古代遺跡の美術・考古学的調査及び発掘)のためイランへ派遣された。

1976年8月1日～同年9月22日

牛川喜幸 クシャーン朝文化を中心とする中央アジアの考古学的調査のためアフガニスタン・パキスタン・イランに派遣された。

1976年9月3日～同年11月1日

狩野久 文部省在外研究員としてスウェーデン・デンマーク・ドイツ連邦共和国・連合王国・フランス・イタリアに派遣された。:木簡の研究調査のため(本文参照)

1976年10月16日～同年12月15日

亀井伸雄 ローマ文化財修復国際センターにおける史跡記念物の保存に関する研修コースへの参加及びヨーロッパにおける文化財建造物の

修復技術の調査研究のためイタリア・フランス・ドイツ連邦共和国に派遣

1976年12月30日～1977年7月15日

協力事業等

- (1) 「北浦定政顕彰会」の諸事業(田原顕彰墓碑周辺整備・古市墓地への誘導計画・記念展開催・記念出版等)の遂行に、随時所員一同が協力した。(研究集報参照)

- (2) 文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度からは当研究所が文化庁から支出委任を受けて買収事務を担当しているが、1976年度の状況は下記の通り

区 分	面 積	購 入 額
1976年	30,923.06 m ²	505,297,506円
国有地合計	114,856.03	1,761,197,606

大蔵省より移管の 1,404.92 m²を含む

II 図書及び資料

図書 38,348冊

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
1976年	和 漢 書	1,598	3,704	5,302
	洋 書	251	29	280
累 計	和 漢 書	23,254	12,560	35,814
	洋 書	2,201	333	2,534

写真 149,996点(1976年度末現在)

III 研究成果刊行物

1976年度刊行物

名 称	担 当 者
学報第30冊 五條 町並調査の記録	鈴木・岡田・宮沢・細見・宮本・上野・中村・松本・清水・佃・福田
史料第II冊 日本美術院仏像等修理記録III	田中(義)・星山・百橋・森(庸)・八幡
基準資料第4冊 瓦編4解説	飛鳥藤原宮跡発掘調査部
基準資料第5冊 瓦編5解説	平城宮跡発掘調査部考古第三調査室
図録第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏	飛鳥資料館学芸室
図録第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏銘文篇	同 上
概報他 海住山寺総合調査目録	田中(稔)・星山・加藤・綾村・東野・百橋
平城京右京五条四坊三坪発掘調査概報	狩野・佐藤・田中(哲)・岡本・毛利光・土肥・清水
飛鳥編年史料集稿1	鬼頭・東野・宮川・泉谷
飛鳥編年史料集稿2	鬼頭・東野・宮川・泉谷

奈良国立文化財研究所年報

前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院雜宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢II
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
1963	第14冊	レースと金亀舍利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告II 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告III 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告IV 官衙地域の調査
	第18冊	小堀遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集I
1973	第22冊	研究論集II
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告VI 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告VII
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告I
	第28冊	研究論集III
	第29冊	木曾奈良井 町並調査報告

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊	西大寺叡尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乘坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡 1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡 1 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料 1
1974	第8冊	平城宮木簡 2 図版・解説
1975	第9冊	日本美術院仏像等修理記録 I
	第10冊	日本美術院仏像等修理記録 II

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1975	第3冊	瓦編3 解説

IV 機構・定員

機構の改正

1976年5月10日省令改正に伴い埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設。

定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1975年度	1	23	7	65	96
1976年度	1	23	7	67	98

(増員内訳) 埋蔵文化財センター 3

(減員内訳) 平城宮跡発掘調査部 1

V 予算(1976年度)

歳	出	984,924,511円
人件費		313,460,511
運営費		436,071,000
事業管理		5,172,000
一般研究		40,460,000
特別研究		2,198,000
発掘調査		282,942,000
宮跡整備管理		32,706,000
飛鳥資料館運営		42,356,000
埋蔵文化財センター運営		30,237,000
施設費		235,393,000
施設整備費		126,220,000
平城宮跡地等整備費		108,660,000
各所修繕		513,000

VI 施設

土地 23,371㎡(当所所管)

春日野地区 5,126㎡ 飛鳥資料館 16,902㎡

資料館地区 1,343㎡

1,068,198.30㎡(文化庁所管)

平城宮跡地区 953,342.27㎡

(他に奈良県先行取得地59,682.956㎡がある)

藤原宮跡地区 114,856.03㎡

奈良国立文化財研究所要項

建 物

建 物	春日野	平 城	藤 原	飛 鳥 資 料 館	計
事 務 所	797	1,820	465	152	3,234
倉庫収蔵庫	191	3,777	963	—	4,931
車 庫	20	130	120	94	364
会 議 室	40	192	—	42	274
講 堂	109	—	—	89	198
写 真 室	86	192	32	49	359
展 示 室	—	360	—	648	1,008
覆屋・展示棟	—	1,518	—	—	1,518
そ の 他	200	1,427	152	1,581	3,360
計	1,443	9,416	1,732	2,655	15,246
重要文化財 田米谷家住宅					198
合 計					15,444

主要工事

(1)施設整備費

飛鳥藤原宮跡発掘調査部研究棟新営工事	6,850千円
同 上	電気工事 710
飛鳥資料館西側法面整備工事	760
飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺物収蔵庫電気工事	590
飛鳥資料館水道引込工事	1,100
平城宮跡第4収蔵庫建設予定地造成工事	3,421
平城宮跡発掘調査部受電設備改修工事	1,170
飛鳥藤原宮跡発掘調査部新営遺物収蔵庫収納棚 設置工事	1,968
飛鳥資料館周辺整備工事	3,550
覆屋便所給水管敷設工事	467
飛鳥藤原宮跡発掘調査部油庫新設工事	589

(2)平城宮跡地等整備費

説明板設置工事	2,111
平城宮跡環境整備昭和51年度第1期工事	31,200
同 上	第2期工事 93,000
平城宮跡取水施設工事	1,930

平城宮跡昭和51年度買収地環境整備工事

1,050

藤原宮跡環境整備昭和51年度工事21,150

(3)建設省近畿地方建設局委任工事

飛鳥資料館整備工事 24,685

Ⅶ 人事異動

(1976年4月1日～1977年3月31日)

4月1日 文化庁文化財保護部無形文化民俗文化
課課長補佐に転任 原田 拓
庶務課長に転任 音川啓太郎
文部省に出向(木更津工業高等専門学
校事務部庶務課長に就任)五十嵐春雄
飛鳥資料館庶務室長心得に配置換

森口 節之
会計課課長補佐に昇任 吉田 博次
京都国立博物館学芸課考古室長に転任
八賀 晋

平城宮跡発掘調査部考古第二調査室長
に昇任 佐藤 興治
飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に
昇任 小笠原好彦
会計課に転任 小林 雅文
事務補佐員採用 藤本 節子
研究補佐員採用 丸川 義広

5月10日 埋蔵文化財センター研究指導部集落遺
跡研究室長に配置換 佐原 真
文部技官採用 小林 謙一
井上 和人・清水 真一

5月16日 文部技官採用 巽 淳一郎
文化庁へ出向(文化財保護部記念物課)
稲田 孝司

6月21日 技能補佐員採用 吉村 司朗
研究補佐員採用 新田 洋

7月30日 辞職 梶 幸治郎

10月1日 文化庁文化財保護部建造物課主任文化
財調査官に転任 岡田 英男

11月1日 建造物研究室長に配置換 牛川 喜幸

12月23日 技能補佐員採用 望月 正治

1月31日 辞職 刀谷 純子

3月30日 辞職 沖村 和子・石田賀代子

石谷 幸子・山田 猛

坂野 和信・福田 洋子

Ⅷ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号
昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号，追加昭和43年6月15日文部省令第20号
昭和45年4月17日文部省令第11号，昭和48年4月12日文部省令第6号，
昭和49年4月11日文部省令第10号，
昭和50年4月2日文部省令第13号，
昭和51年5月10日文部省令第16号

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、美術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

- 一 庶務課
- 二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
- 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。
- 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。
- 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

3 会計課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 予算に関する事務を処理すること。
- 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
- 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
- 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。
- 五 庁舎の取締りに関すること。

（美術工芸研究室等の事務）

第127条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他の有形文化財（次項及び第3項に規定するものを除く）、及び工芸技術に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行なう。

2 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行う。

3 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

（平城宮跡発掘調査部の六室及び事務）

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行なう。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び

調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。
- 5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。
- 6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の二室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、第一調査室及び第二調査室を置く。

- 2 第一調査室及び第二調査室においては、それぞれ藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡(藤原宮跡を除く)に関し、次の各号に掲げる事務を処理するほか、その発掘を行なう。

- 一 遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表

- 二 遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表

- 三 史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行なう。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

- 2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

- 3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

- 一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

- 二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料

の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

- 三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

- 一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

- 二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

- 三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

- 2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの内部組織)

第135条 埋蔵文化財センター内に、教務室及び研究指導部を置く。

(教務室の事務)

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の四室及び事務)

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、遺物処理研究室及び測量研究室を置く。

- 2 考古計画研究室においては、第133条各号に掲げる事務(他の室の所掌に属するものを除く)をつかさどる。

- 3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条各号に掲げる事務(遺物処理研究室及び測量研究室の所掌に属するものを除く)をつかさどる。

- 4 遺物処理研究室においては遺物の処理に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

- 5 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

職員 (1977年7月16日現在)

所属	氏名	官職	担当
	坪井 清足	文部技官 所長	
庶務課	服部 栄次	文部事務官 部長	
	音川 啓太郎	文部事務官 課長補佐	
	岩本 次郎	文部事務官 係長	
	山崎 一博	文部事務官	
	西 徹二	文部事務官	人 事務
	忠 利二	文部事務官	庶 務
	木寅 忠雄	文部事務官 警務員	長 備
	森田 光治	文部事務官 警務員	員 備
	岡田 茂	文部事務官 警務員	員 備
	栢本 安臣	文部事務官 専門員	警 務
	八幡 扶桑	文部技官 専門職員(併任)	平 城
	宮本 安代	文部技官 専門職員(併任)	警 務
	港 悦子	文部技官 専門職員(併任)	員 備
	中川 かよ	文部技官 専門職員(併任)	長 備
庶務課	杉本 光司	文部事務官 課長補佐	
	吉田 博次	文部事務官 課長補佐	
	日高 参夫	文部事務官 課長補佐	
	吉田 博次	文部事務官 課長補佐	
	冬野 徹	文部事務官 課長補佐	
	大西 肇	文部事務官 課長補佐	
	前川 重子	文部事務官 課長補佐	
	吉田 和子	文部事務官 課長補佐	
	藤本 きよ	文部事務官 課長補佐	
	西田 健三	文部事務官 課長補佐	
	新井 耕治	文部事務官 課長補佐	
	小林 雅文	文部事務官 課長補佐	
	中西 建夫	文部技官 課長補佐	
	飯田 信男	文部技官 課長補佐	
庶務課	東田 道代	文部技官 課長補佐	
	日高 参夫	文部技官 課長補佐	
	渡辺 康史	文部技官 課長補佐	
	奥村 未儀	文部技官 課長補佐	
	高木 博子	文部技官 課長補佐	
	加藤 建夫	文部技官 課長補佐	
	田中 義恭	文部技官 課長補佐	
	百橋 明徳	文部技官 課長補佐	
	守田 公夫	文部技官 課長補佐	
	西 庸子	文部技官 課長補佐	
	工藤 圭章	文部技官 課長補佐	
	細見 啓三	文部技官 課長補佐	
	宮本 長二郎	文部技官 課長補佐	
	上野 邦一	文部技官 課長補佐	
庶務課	田中 哲治	文部技官 課長補佐	
	光谷 拓実	文部技官 課長補佐	
	福山 敏男	文部技官 課長補佐	
	福田 幸子	文部技官 課長補佐	
	田中 稔	文部技官 課長補佐	
	東野 治之	文部技官 課長補佐	
	綾村 宏	文部技官 課長補佐	
	山中 敏史	文部技官 課長補佐	
	千田 剛道	文部技官 課長補佐	
	須藤 隆	文部技官 課長補佐	
	堀池 春峰	文部技官 課長補佐	
	田中 稔	文部技官 課長補佐	
	東野 治之	文部技官 課長補佐	
	綾村 宏	文部技官 課長補佐	
山中 敏史	文部技官 課長補佐		
千田 剛道	文部技官 課長補佐		
須藤 隆	文部技官 課長補佐		
堀池 春峰	文部技官 課長補佐		

所属	氏名	官職	担当
	狩野 久	文部技官 部長	
考古第一調査室	町田 章	文部技官 室長	考 古
	沢田 正昭	文部技官 室長	保 存
	菅原 正明	文部技官 室長	考 考
	土肥 謙一	文部技官 室長	考 考
	小林 友博	文部技官 室長	考 考
	中村 扶桑	文部技官 室長	考 考
	八幡 幹雄	文部技官 室長	考 考
	藤 興治	文部技官 室長	考 考
	吉田 恵二	文部技官 室長	考 考
	須藤 隆太郎	文部技官 室長	考 考
	安田 龍太郎	文部技官 室長	考 考
	井上 和人	文部技官 室長	考 考
	森 郁夫	文部技官 室長	考 考
	岡本 東三彦	文部技官 室長	考 考
毛利 光俊	文部技官 室長	考 考	
栗 淳一郎	文部技官 室長	考 考	
考古第二調査室	宮沢 智士	文部技官 室長	建 築
	中村 雅治	文部技官 室長	建 築
	清水 真一	文部技官 室長	建 築
	宮本 長二郎	文部技官 室長	建 築
	安原 啓示	文部技官 室長	遺 跡
	田中 哲雄	文部技官 室長	庭 園
	光谷 拓実	文部技官 室長	庭 園
	加藤 尤彦	文部技官 室長	庭 園
	森 尤彦	文部技官 室長	庭 園
	横田 拓実	文部技官 室長	歴 史
	今泉 隆雄	文部技官 室長	歴 史
	綾村 宏	文部技官 室長	歴 史
	加藤 宏	文部技官 室長	歴 史
	細見 啓三	文部技官 主任研究官	建 築
加藤 優	文部技官 主任研究官	歴 史	
宮本 長二郎	文部技官 主任研究官	建 築	
考古第三調査室	栢本 安臣	文部事務官	事 務
	木寅 忠雄	文部事務官	務 總
	森田 光治	文部事務官	務 總
	飯田 信男	文部技官	務 總
	橋本 信子	文部技官	務 總
	橋本 伴子	文部技官	務 總
	中村 美千代	文部技官	務 總
	六戸 雅子	文部技官	務 總
	中西 千枝子	文部技官	務 總
	池田 千賀枝	文部技官	務 總
	吉村 司朗	文部技官	務 總
	城本 きよの	文部技官	務 總
	石川 千恵子	文部技官	務 總
	泉谷 聖子	文部技官	務 總
岩本 さよ子	文部技官	務 總	
福原 まり花	文部技官	務 總	

所属	氏名	官職	担当	所属	氏名	官職	担当	
飛鳥資料館	工藤圭章	文部技官部長	長	飛鳥資料館	島田郁子	事務補佐員	事務	
	猪熊兼勝	文部技官室長	長		秋本喜子	事務補佐員	事務	事務
	斐甲斐上野西口越川岩本	文部技官室長	長		稲乾福井	技能補佐員	技能	事務
	鬼頭清明	文部技官室長	長		田中義恭	文部技官室長(併任)	文部技官	事務
	黒崎直文	文部技官室長	長		星山晋也	文部技官室長(併任)	文部技官	事務
	西弘海	文部技官室長	長		東野治之	文部技官室長(併任)	文部技官	事務
	金子裕	文部技官室長	長		大津村広志	文部事務官	文部事務	事務
	山田剛信	文部技官室長	長		藤沢一夫	文部事務官	文部事務	事務
	松本修	文部技官室長	長		田中稔	文部技官	センター長	事務
	小笠原好彦	文部技官主任研究官	主任研究官		岡本清敏	文部事務官	室長	事務
	木下正史	文部技官主任研究官	主任研究官		岡本節子	文部事務官	室長	事務
	加藤建夫	文部事務官	事務		田中琢	文部技官	部長	事務
	刀谷敏博	文部技官	事務		松沢亜生	文部技官	室長	事務
	畑野恵子	文部技官	事務		岩山圭輔	文部技官	室長	事務
	井上直夫	技術補佐員	技術		山本忠尚	文部技官	室長	事務
望月正治	技術補佐員	技術	佐原真	文部技官	室長	事務		
宮川伴子	研究補佐員	研究	田辺征夫	文部技官	室長	事務		
丸川義弘	研究補佐員	研究	山中敏	文部技官	室長	事務		
立花聡	研究補佐員	研究	工楽善通	文部技官	室長	事務		
坪井清足	文部技官館長(取扱)	館長	秋山隆保	文部技官	室長	事務		
森口節之	文部事務官	事務	木全敬藏	文部技官	室長	事務		
大西末儀	文部事務官	事務	伊東西村	文部技官	室長	事務		
奥村敏博	文部技官	事務	伊東伸雄	文部技官	室長	事務		
刀谷一三	文部技官	事務	伊東太作	文部技官	主任研究官	事務		
米垣睦美	事務補佐員	事務						
中垣三子	事務補佐員	事務						
寺田千鶴	事務補佐員	事務						

